



## 新大工の街並みと長崎監獄

# 広大な敷地 3区域に分割

写真に見る  
115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□5□

風頭から新大工方面を撮影している。中央の横に走る家並みは旧長崎街道。左端の茂みは伊勢宮で、右端の白塀は写真師上野彦馬のは、片淵郷（現片淵町）に屋敷である。明治15（1882）年に建つた「ビードル」。江戸時代、桜町に置かれた牢屋敷は明治9年に長崎監獄と改称され、明治15年ここに移転した。幕末、ここには番役五組（遠見番・唐人番・船番・町使・散使）および町役人の武芸道場万部館があった。明治10年の西南戦争時には、寺北側の屋根には採光のガラスが嵌められていた。

「口の家」が見える。反対の影で、奥の堀に囲まれた建物群が見えた。この畠地に官軍が駐屯する病舎では、や民家ににおける病舎では、足りずに、この畠地に官軍の仮病院が建てられた。

長崎監獄は8千坪（平和8年）に建設された長崎監獄である。江戸時代、桜町に置かれた明治政府は、監獄費を近は管理区画で、県庁の監獄課と職員官舎が見える。右奥4棟の長屋は既決囚、左手前の監視室（パノプティコン）の原型のような放射状の配置の建物は、未決囚の獄舎と思われる。右端の洋輔の祖父、啓次郎の設計で、諫早に近代的で清潔なパノプティコンの長崎であった。明治22（89年）に8年ジャズピアニストの片淵郷（現片淵町）に建設された長崎監獄では、長崎県内の在監者881人のうち541人が収監された。長崎刑務所片淵分監と改称され、昭和3年浦上岡町（現平和公園）に長崎刑務所新監となる。大正11（22年）に

主義の監獄の改善を求めていた。左の正門付近は国庫の支弁に変更し、監獄を建設する。一つ長崎では、明治41（1908）年ジャズピアニストの片淵郷（現片淵町）に建設された長崎監獄では、長崎県内の在監者881人のうち541人が収監された。長崎刑務所片淵分監と改称され、昭和3年浦上岡町（現平和公園）に長崎刑務所新監ができると移転消滅する。

（長崎外國語大・新長崎学研究センター長）

週1回掲載します